PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 04025223 A

(43) Date of publication of application: 29.01.92

(51) Int. CI

H04B 1/04 H04B 7/10

(21) Application number: 02129807

(22) Date of filing: 18.05.90

(71) Applicant:

NEC CORP

(72) Inventor:

ARAI MASAMI

(54) TRANSMISSION POWER CONTROL SYSTEM

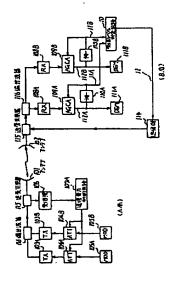
(57) Abstract:

PURPOSE: To prevent deterioration in the cross polarized wave identification degree by providing a circuit deciding the reception level of a radio signal of two routes in co-channel transmission to a receiver side.

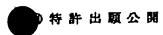
CONSTITUTION: A reception level deciding circuit 10 compares output levels 11A, 11B corresponding to reception levels of V, H polarized waves and decides a level which is larger, and when the V polarized wave is decreased due to fading and the level of the H polarized wave is higher than the level of the V polarized wave, the output level 11B of the H polarized wave and a deciding signal 12 is inputted to a transmitter 114. A station A receives a transmission wave from the transmitter 114 and a receiver 106 inputs the signal corresponding to the signal 12 to a transmission power control circuit 107A. The transmission power control circuit 107A receives the deciding information to control the transmission output of the TX 103B so that the transmission output level is a proper level such as the higher reception level of a station B, e.g. the output of a RX 108B. Thus, the deterioration in cross

polarized wave identification degree is prevented.

COPYRIGHT: (C)1992,JPO&Japio







四公開特許公報(A)

平4-25223

®int.Cl. ⁵

識別記号

庁内整理番号

@公開 平成4年(1992)1月29日

H 04 B 1/04 7/10 E 7240-5K B 9199-5K

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全4頁)

60発明の名称 送付

送信電力制御方式

郊特 顧 平2-129807

20出 願 平2(1990)5月18日

内発明者 荒井

TE B

東京都港区芝5丁目7番1号 日本電気株式会社内

東京都港区芝5丁目7番1号

勿出 顒 人 日本電気株式会社

20代理人 弁理士内原 晋

明細書

発明の名称

送信電力制御方式

特許請求の範囲

前記第1および第2の受信部のそれぞれに備え

られた自動和得制御増幅器の自動利得制御電圧を 比較して受信レベルが高い方の自動利得制御電圧 を判定し、この判定に対応する制御情報を前記送 信機に入力する受信レベル判定回路を有すること を特徴とする送信電力制御方式。

発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明はマイクロ波通信における送信電力制御方式に関し、特にコチャンネル無線周波数により 垂直偏波であるV偏波と水平偏波であるH偏波を 利用して2ルートの無線回線を構成した場合に、 お互いに他の偏波の受信機への干渉レベルを抑圧 できる送信電力制御方式に関する。

〔従来の技術〕

従来、対向局との間でコチャンネル無線周波数により 2 ルートの無線回線を構成する場合に、第 2 図のプロック図に示すように、A 局は、ベースパンド信号の変調器(以下MODという) 1 O 5 Aと、後述する MOD 1 O 5 A の出力レベルを

制御する可変減衰器(以下<u></u>工という)104 Aと、送信機(以下TXと **丿)103Aとで持** 成される第1の送信部であるV俣紋用送信部、 およびMOD105BとATT104Bと、TX 103Bとで構成される第2の送信部であるH何」 故用送信都を有する。この 2 ルートの送信波は 運分波器116でV 偏波とH 環波がある 偏波線別 度を保有して合成される。この合成出力は後述す る対向局の受信波を振り分ける送受共用器115 を介してアンテナ101を径由して対向局である B 局に送信される。 B 局は、アンテナ102. 送受共用器115。偏分波器116を介してA局 のTX103人の送信波を受信する受信機(以下 RXという) 108Aと、RX108Aの出力レ ベル制御を行う可変利得増幅器(以下AGCAと いう) 109Aと、AGCA109Aの出力信号 検説用の検出器110Aと、ベースパンド信号復 週用の復調器 (以下DEMという) 111Aとで 横成される第1の受信部であるV偏波用受信部、 およびA局のTX103Bの送信波を受信する

R X 1 0 8 B と **(本)**G C A 1 0 9 B と、検出器 1 1 0 B と、 D E 1 1 1 B と で 構成される 第 2 の受信部であるH俣汝受信部を有する。さらに、 B局では検波器110A.110Bの出力レベ N 1 1 3 A , 1 1 3 B & F t t t A G C A 1 0 9 A. 109Bに帰還してAGCAの出力レベルを 一定にするとともに、出力レベル113A、11 3 B を送信機 1 1 4 に入力して、この出力レベル 113A、113Bの情報をA局に送信してい る。 A届では送信機114の送信波をアンテナ1 01、送受共用器115を径由して受信機106 で受信復期して出力レベル113A.113Bに 対応する情報を送信電力制御器107に入力して いる。ここで送信電力制御器107はこのV屑波 およびH偏波に対応する2つの情報を監視して、 ある定められたしきい値より、例えばV何彼の 方が低くなった場合にはATT104Aを制御し て被表量をへらしてTX103Aの送信電力を上 げている。逆に日復波の方が低くなった場合には ATT104Bを制御してTX103Bの送信

電力を上げるように制御している。このようなV 偏波と日偏波を利用して 2 ルートの無線回線を構 成した場合に、互いに他の領波への干渉について 第3図の説明図により説明する。第3図(a)、 (b)、(c)はそれぞれV偏波、片偏波両方と も標準の受信状態、V價波側にフェージングが発 生した状態、このフェージングによりTX103 Aの送信出力を上げた状態におけるB局の可変利 得増幅器の出力112Aの出力スペクトラクで ある。実験はV側、H側の信号スペクトラム、 敬雄のV´、H´はV無、H側の交差領波成分、 すなわち他偏波への干渉成分を示している。 第3 図(b)の状態のときに、V側の送信電力を上げ る方向に電力制御回路107が動作して第3回 (c)のようになる。すなわち、H個ヘリークす る交差偏差成分V′のレベルが大きくなり、H個 の交差偏波識別度を劣化させていた。

[発明が解決しようとする課題]

上述した従来の送信電力制御方式は、対向局の 受信側がそれぞれの受信機で独立にAGC制御が 行なわれている。又、コチャンネル伝送されている 2 ルートの無線信号のうち片側の受信レベルがフェージング等により下がったときに、この情報を送信側の局に伝送して送信電力制御回路がある定められたしきい値以下になったことを判定すると、送信電力を上げる方向に動作するので、受信側での交差領波識別度が劣化するという欠点がある。

〔課題を解決するための手段〕

情報を入力して前記送信息を受信機に送信する送信機とを有する送信電力 方式において、

前記第1および第2の受信部のそれぞれに備え られた自動利得制御増福器の自動利得制御電圧を 比較して受信レベルが高い方の自動利得制御電圧 を判定し、この判定に対応する制御情報を前記送 信機に入力する受信レベル判定回路を有する。 〔実施例〕

次に、本発明について図面を参照して説明す

第1団は本発明の一実施例を示すブロック図である。第2図の従来例と同一記号を回路は同一の構成と動作である。すなわち、B 局における検出器 110A、110Bの出力レベル11A、11B はそれぞれAGCA109A、109Bの出力レベルを一定にするようにAGC制御するとともに受信レベル判定回路10に入力されている。

受信レベル判定回路10はV偏波、H偏波の受信レベルに対応する出力レベル11A、11Bを 比較して受信レベルの大きい方を判定して、例え ばV領波がフェ ルより高い場合には、H個波 レベルがV個液 の出カレベル11Bを選択して判定信号12を送 信機114に入力する。A局は送信機114の送 信款を受偽し受信機106により判定信号12に 対応する信号を送信電力制御回路107Aに入力 する。送信電力制御回路107Aはこの判定情報 を受信し、送信出力レベルをB局の受信レベルの 高い方、例えばRX108Bの出力が適正なレベ ルになるようにTX103Bの送信出力の制御を 行う。したがって、従来例のようなB局の2つの 受信レベルを比較して定められたしきい値より低 くなった場合に、低いルートの送信出力を上げて 正常な受信レベルである他偏被への干渉を大きく するおそれがない.

〔発明の効果〕

以上説明したように本発明は、コチャンネル伝送される 2 ルートの無線信号の受信レベルを判定する回路を受信値に設けて、この判定情報により送信値の送信電力を制御しているので、フェージ

ング等による関係液がお互いに交差係液機別度の 劣化を防ぐことができる効果がある。

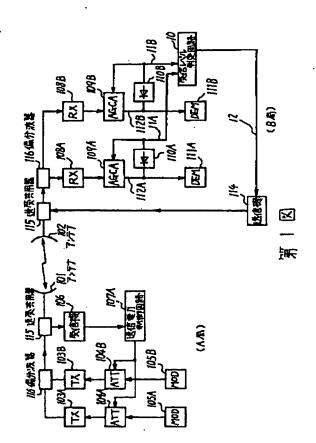
図面の簡単な説明

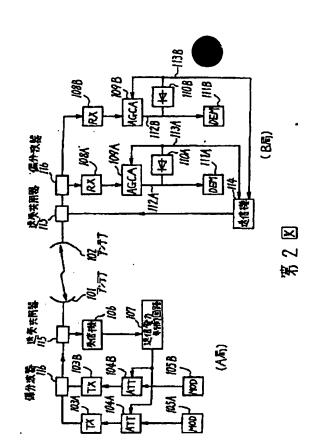
5 ·

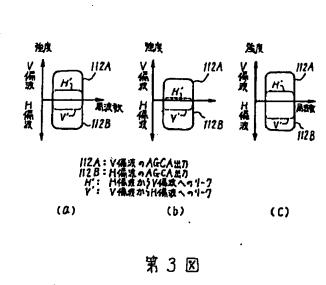
第1図は本発明の一実施例のブロック図、第2図は従来の送信電力制御方式のブロック図、第3図(a),(b),(c)は従来例の動作の説明図である。

10…受信レベル判定回路、11A、11B… 出力レベル、12…判定信号、101、102 …アンテナ、103A、103B…送信機(TX)、104A、104B…可変被変器(ATT)、105A、105B…変調器(MOD)、106…受信機、107,107A…送信電力制御回路、108A、108B…受信機(RX)、109A、109B…可変利得増信器(AGCA)、110A、110B…検出器、111A、111B…復調器(DEM)、114…送信機、115…送受共用器、116…偏分波器。

代理人 弁理士 內 原 智







This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning Operations and is not part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

□ BLACK BORDERS
□ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
□ FADED TEXT OR DRAWING
□ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
□ SKEWED/SLANTED IMAGES
□ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
□ GRAY SCALE DOCUMENTS
□ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
□ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

OTHER:

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.